

令和5年度結核診療連携拠点病院研修会 ごあいさつ

岡山県保健医療部健康推進課長の國富です。

「結核診療連携拠点病院研修会」の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。皆様方におかれましては、大変お忙しい中、多数ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、日頃から、結核患者の早期発見、予防対策等にご尽力をいただきまして、厚くお礼を申し上げます。

本県では、結核を取り巻くさまざまな状況に対応するため、南岡山医療センターと岡山県健康づくり財団附属病院の2つの病院を結核診療連携拠点病院として指定し、本日の研修会を開催していただいております。

さて、本県の結核罹患率は、令和4年は人口10万人あたり7.9と低まん延状態にあります。結核患者の約7割は70歳以上の高齢者が占めているほか、結核高まん延国からの外国人労働者等の流入に伴う外国出生患者の割合の増加や、低まん延状態だからこそ起こる関心の薄れによる結核患者の発見の遅れなど、様々な課題があります。

そのような中、今年度の研修会は、「低蔓延時代の結核対策をどう進めていくか」をテーマに行われます。この研修会が、ご出席の皆様方にとって、実り多いものになりますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

岡山県保健医療部健康推進課

課長 國 富 優 香